

公益財団法人 檜の芽会 御中

伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日	令和6年5月15日	
② 法人・団体名	特定非営利活動法人キッズドア		
③所在地	〒104-0033 東京都中央区新川2-16-10 プライムアーバン新川2階		
③ 責任者氏名	渡辺 由美子	(役職名等)	理事長
④ 担当者氏名	東 操	(役職名等)	部長

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R05-028	⑦助成金額	227万円	⑧申請カテゴリー	FS
⑨奨学活動名	無料学習会「寺子屋宝珠庵」				
⑩主な実施場所	東京都練馬区谷原6丁目				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

- ・新規親子面談（家庭状況・親子関係・学習計画の把握）
- ・夏期講習（5回）／・冬期講習（1回）／・中3受験集中対策／・Vもぎ無償提供2回
- ・特別授業（高校生による英語教室）2回
- ・プチイベント（工作やキャリアトーク、調理体験）
- ・お楽しみ会、クリスマス会、たこ焼きパーティ、ハロウィーンパーティ
- ・情報提供（外部団体のスポーツイベントや助成金の情報など）
- ・フードパントリー 3回（合計：17世帯）
- ・食事提供 69回・307食（小学生：133食＋中学生：174食）

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A:人)	平均時間 (B:時間)	活動量 (A x B)	備考・補足
中学生等	136	3h	408h	登録人数
高校生等	0	0	0	
大学生等	0	0	0	
学習支援員等	413	3.5h	1445.5h	学習指導+ミーティング*（食事提供支援員は⑬へ）
その他	174	2.5h	435h	支援対象：小学生/登録人数
合計			2288.5h	

⑬その他の定量的な数値（任意）

軽食提供をしてくださる団体の来所（7月～3月までの数）

延べ人数 (A:人)	平均時間 (B:時間)	活動量 (A x B)
133	2.5h	332.5h

令和 5 年度 伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：無料学習会「寺子屋宝珠庵」

法人・団体名：特定非営利活動法人キッズドア

作成者 氏名：土井清子

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

・不登校生徒支援

目的・・・通学できない子ども（複数名）とその家族が寺子屋宝珠庵を通じ、孤立しないよう社会との接点の場、社会性を身に付けられる場としてフォローする。

実施内容・・・利用開始前に親子面談を実施。ヒアリングや会話様子から親子関係や学力、悩みなど現状を把握し、子どもの利用意思を確認。保護者にも利用目的を考えさせる。学習指導ボランティアにも現状や要望を共有し、強制学習ではなく寄り添い学習をお願いし、褒めて認めて自己肯定感・自己効力感を高めた。

・食事の提供

目的・・・家計の負担減。孤食の防止。美味しくて栄養のある食事と、楽しい食卓の提供。

実施内容・・・地域の NPO 団体によるボランティア活動として調理・食材提供にご協力いただいた。大人との会話の中で社会性を身に付け、味付けや調理方法などに興味・関心を深められた。

・異学年の交流

目的・・・自己肯定感、コミュニケーション能力や協調性の向上。

小学 4 年生～中学 3 年生の生徒層が利用する「寺子屋宝珠庵」。

年下生徒が年上生徒を頼ったり、年上が年下生徒の話を聞いてあげたり、生徒同士の互いに助け合い、思いやる気持ちを育み、身に付けさせる。

実施内容・・・学習イベント時に異学年でチームを作るなど機会を増やしたところ、生徒が自発的に話しかける回数が増えたり、作業の手伝いをお願いしたり、協力し合う姿など相互関係が確立していた。

特に、年上の生徒の学習姿勢や勉強の仕方や正答する姿を見ることで、自分自身の学習方法を見直すきっかけや、憧れの先輩モデルとして意識している様子が見られた。

2. 実施した奨学活動の詳細

・参加人数

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
小学生	11	5	20	21	15	15	17	12	20	136
中学生	14	5	26	26	20	26	21	16	20	174

・特別企画：地域の高校生による英語レッスン

地域に根差した「寺子屋宝珠庵」近隣にお住まいの方々による学習指導と交流

(実施：2回) 高校生4名→写真

高校生には、事前に寺子屋宝珠庵の説明を行い、ボランティア登録をしてもらった。

開催前には、利用中の保護者にも案内を行い万全を期して実施。

親睦を深めるため、高校生と小学生・中学生、一緒に軽食も摂った。



・夏期講習（5日間）

夏休み期間に実施。主に夏休みの宿題を片付けることを目標とした。

学習時間が長い為、後半は以下のプチイベントを実施。

- 初 日：近隣にお住いの戦争体験者による「戦争避難体験」「ビーズ作り」
- 二日目：ボランティアさんによる「三線ってなあに」
- 三日目：ボランティアさんによる「英語」「工作（パタパタ）」
- 四日目：ボランティアさんによる「キャリアトーク」
- 五日目：ボランティアさんによる「工作（メビウスの輪）」 →→写真→



・中3受験集中対策（12/26 1回）

→中3生だけを対象にして、選択してもらい学習支援。

英語と数学を希望したので、ボランティア講師2名をお呼びした。

2時スタート、途中休憩をとり、5時まで2教科を行った。

5時以降は軽食を摂って解散。

・冬期講習（1/5 1回）

→夏期講習同様、子どもたちの集中力を見て、プチイベントを実施。

- ・プチイベント（工作やキャリアトーク、調理体験）



・調理ボランティアさんのお手伝い（不定期）

ニョッキ作りを子どもたちがお手伝い →

かぼちゃニョッキは夕食に。

苦手だったかぼちゃも食べられるようになりました。



・季節ごとのイベントやお楽しみ会



↑夏のイベント：手持ち花火の様子



↑ハロウィーン



↑餃子パーティ

・Vもぎ無償提供

受験サポート：2回無料

中学3年生対象の高校入試のための模擬テスト。

都立高校受験希望の受験生が集まり本試験と同じスタイルで受験できる。テスト本番としての臨場感を味わえる。

受講後、テストの結果が右の写真のように送られてくるので細かい部分で指導がしやすい。

通常価格が4600円（1テスト）と高額なため、低所得層にとっては複数回の受験を諦めざるを得ない傾向にある。



・フードパントリー 3回（合計：18世帯）

キッズドアが子ども家庭庁から中間支援団体として採択され、「ごはん応援プロジェクト」を3回実施。

右端の写真は、保護者がお礼の写真を送ってくださった。



・食事提供 70回・約430食（7月～3月）

認定NPO法人アクト練馬たすけあいワーカーズエプロン（略称エプロン）は、主菜・副菜・汁物・デザートなど、とてもバランスの取れた食事をいつも提供して下さっている。

※スタッフの分、出席予定で欠席した生徒の分、イベント時など食数は目安。



・外部団体の情報提供（スポーツイベントや助成金の情報など）

重田教育財団

母子世帯対象「第10回養育援助金」のご案内

対象：6歳以下のお子さんのいらっしゃる母子家庭

→チラシ



ピースライオンズクラブによるバス日帰り旅行

8月21日、千葉県のスズキビートルランド（2家庭：5名参加）



←ビートルランドホームページより

・ニュースレターの発行

毎月作成・配布する案内状

保護者・利用生徒、学習支援ボランティアにも配布。

予定表やお知らせなどを記載し、コミュニケーションを図っている。

→サンプル

檜の芽会の助成表示



・近隣施設との連携

近隣の児童館や図書館などへのご挨拶と、寺子屋宝珠庵の生徒募集の協力依頼。

→配布依頼したチラシ

児童館に来る子どもたちに向けた「寺子屋宝珠庵：出張学習会」

を今年度中に行う予定。

檜の芽会の助成表示



・イベントの情報提供

A：映画上映のご案内

子どもたちへのサポートを行うNPO団体からの情報提供



B：遠足のご案内

東京都公園協会からの石神井公園遠足



C：おまつりのご案内

軽食提供ボランティア活動をしている地域団体のお祭りの案内。



・修了生支援

中学3年生は寺子屋宝珠庵の対象外となるが、引き続き弊団体の情報提供を受け取れるよう、ご案内をした。

高校生になっても、キッズドアの修了生として学習支援を受けられたり保護者にとっても孤立を防ぎ、「教育格差」に陥らないよう、サポートをしていく。

- ・お楽しみイベント
- ・大学進学情報
- ・食品
- ・ファミリーサポート など



・学習支援員について

寺子屋宝珠庵では、子どもに勉強を教える学習支援員は全員ボランティアである。

大事なことのひとつとして挙げるのが「学習支援のゴールは子どもの自立」ということで、子どもに何でも与えるのではなく、自分の力で学べるような支援を考え提供していくようお願いしている。

ボランティアが寄り添いながら勉強を教えたり、やさしくお話を聴いてあげることで、子どもたちが自分の力でやる気をだしたり、ボランティアから体験談を聞くことで自らチャンスを掴むことができるからだ。

学習支援に入っていただく前には必要な心構えを説明し、子どもたちのロールモデルになって頂けるよう、日々子どものお手本となるような言葉遣い、一般的なマナー、特定の子どもとだけ仲良くするのではなくみんな平等に、などお伝えしている。

また、年間6回「フォローアップ研修（無料）」を行っている。ウェビナーと後日 YouTube 視聴とし、毎回内容を変更した研修。

目的としては、

- ・基礎的知識向上
- ・学習支援指導技術の向上
- ・学習支援指導の不安払しょく

多種多様な子どもの指導に関して安心してもらえる研修の場となっている。

・購入した機材・物品の写真（助成表示用シールの貼付）



- ・プリンターインク
- ・衛生用品
- ・泡だて器
- ・花火



3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

・得られたもの：経験の大事さ

お楽しみ会で行った「花火」は、様々な事情により家庭で出来そうでできない体験できない一つ。「何年かぶりに手持ち花火をした。やっぱり楽しい。」という生徒もいた。

また、ボランティアさんの発案で、突然計画なくはじまる「名もなきプチイベント」が小さな成功体験として自信を持ってもらえる機会が今後も提供できると良いかと思う。

(以下、プチイベントに名前を付けるとしたら)

1、理科系

「電流が次回から受ける力の実験」(ファラデーモーターの実験)」

「表面張力」の実験(渦電流の実験)

「立方体とその1/3の体積の四角錐の工作」

「立方体とその1/3の体積の正四面体の工作」 等々

2、手作り系

「指あみ：毛糸で作るマフラー」

「指あみ：コースター」 等々

・反省点：不登校生徒支援

会話のコミュニケーションで勉強の進行度合いが同学年の生徒と異なることや、基礎学力に乏しい点を事前にしっかり理解してから学習支援に臨まないで生徒を傷つけてしまうことがある。

→事前に学習支援ボランティアへ状況を伝えること。

事前ミーティングの際、前回の指導で良かったことや気になる点などを共有する。

・今後への発展性

寺子屋宝珠庵では、学習に入れない子どもは、ボランティアさんとゲームや百人一首をしたり、本を読んだり、自分らしくのびのびと過ごせる場になっている。エプロンさんが提供してくださる食事はしっかりと栄養を摂れるように考えられ、子どもたちもいつも大満足。様々な大人が子どもたちに寄り添い、アットホームな雰囲気を醸成しているので、不登校の子どもたちも居心地よく通ってきてくれている。

不登校生徒が増加傾向にある中、寺子屋宝珠庵のような学校でも家でもない第3の居場所は、ますます必要とされるだろう。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等

・冬休み前に、中2になる生徒から「学校の成績が9教科で100点アップしたことを担任が三者面談時に褒めてくれた。」と話してくれた。自分自身に自信が付いたようで嬉しそうだった。保護者からもお手紙を頂戴し、「寺子屋宝珠庵」への感謝があった。

・寺子屋宝珠庵の利用中は帽子を被ったままで、発声しない生徒(中1)が登録しているが、花火が嬉しかったようで「この花火すごいよ!」と走って近寄ってくれて初めて声を聴けたのは嬉しく、今後期待を持てる印象的なシーンだった。

・苦手な食材が食べられるようになった、と保護者から感謝の言葉をいただいた。